

**平成27年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
生涯学習推進専門講座事業報告**

I 事業の概要

研修テーマ 地域（まち）づくりや人づくりに求められる連携・協働のカタチ
～住民の学びの環境を整備するための仕組みを考える～

- 1 趣 旨 人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備としての計画策定・評価及び事業企画に関する専門的な知識や技術などについて理解を深める。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
- 3 期 日 平成27年11月5日（木）・6日（金）
- 4 会 場 道民活動センタービル「かでの2・7」7階 710会議室
- 5 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員など）、生涯学習関連施設（児童館、勤労青少年センターなど）職員、生涯学習・社会教育行政担当者等
- 6 参加状況 57名（社会教育関係職員 25名、社会教育関係職員以外 32名）
- 7 日 程

9:30 10:00 10:30			12:00 13:00		15:00		17:00
11 / 5	受付	開会	基調講義	昼食 休憩	事例研究	ワーク ショップ①	

9:00 9:30		12:00 13:00		14:30 15:30		
11 / 6	受付	ワークショップ②	昼食 休憩	ワーク ショップ③	ふり かえり	



8 活動の概要

(1) 基調講義「地域課題の解決に向けた行政間の連携と協働までの体制づくりを考える」

- 【講師】札幌国際大学スポーツ人間学部教授 佐久間 章 氏
【内容】「連携」は「目的」達成のための「手段」であり、より効果的な学習機会を提供するため、連携先や学習者にもメリットがあるよう「Total Win」の関係を築くことが大切であることを学んだ。

基調講義の様子



(2) 事例研究「行政間の連携や協働による地域課題解決のヒントを探る I～実践事例に学ぶ～」

- ① 「アソビバ! つべつ」(放課後子ども教室)における首長部局や地域の青年団体との連携・協働による事業の展開について(津別町)
【講師】津別町教育委員会社会教育主事 尾路 克彦 氏
【内容】子供たちの体験活動の場を提供する「アソビバ! つべつ」の事業拡充を図るため、産業振興課やJAつべつ青年部と連携したことで、地域の特性を生かした体験活動が提供できるようになった事例について紹介した。

事例研究の様子



- ② 首長部局や青少年教育施設等との連携による社会教育事業の展開と学習提供の在り方について(厚岸町)
【講師】厚岸町教育委員会生涯学習係長 三浦 博哉 氏
【内容】首長部局や施設等との連携について「防災キャンプ」や「ブックスタート」を事例に挙げて紹介するとともに、「生涯学習カレンダー」を作成して、情報を一元化したことによる効果について紹介した。

事例研究の様子



(3) ワークショップ「行政間の連携や協働による地域課題解決のヒントを探る II」

- ① 【コーディネーター】札幌国際大学スポーツ人間学部教授 佐久間 章 氏
【内容】「Total Win」の関係を視点に、ラベルワークを活用して「連携主体」「連携先組織」「連携内容」を想定して考えられる連携のカタチを体系的に整理した。

ワークの様子



- ②・③ 【コーディネーター】北海道立生涯学習推進センター主査 會田 大祐
【内容】集落点検表を活用し、実際に10年後にまちの姿がどう変わるのかをイメージした上で、行政間の連携の可能性についてグループで協議を行った。ふりかえりにより連携・協働による地域づくりについて共通理解を図った。

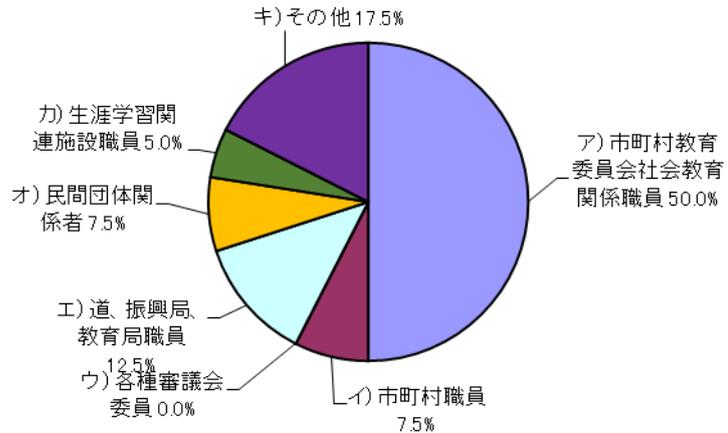
発表の様子



Ⅱ 事業の満足度

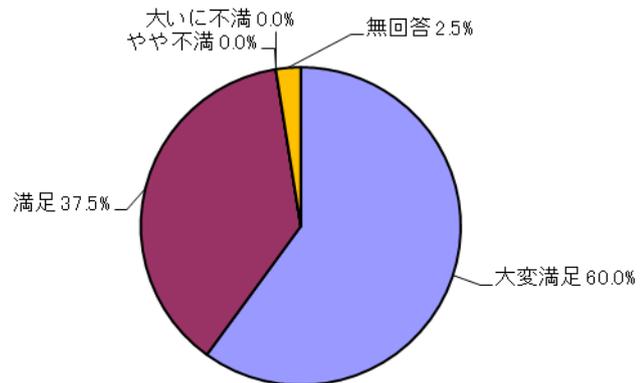
1 アンケート対象者数 57名 回答者数 40名 (回収率 70.2%)

参加者(所属)状況



2 講座全体をとおして

総合満足度	大変満足・満足 97.5%
-------	------------------

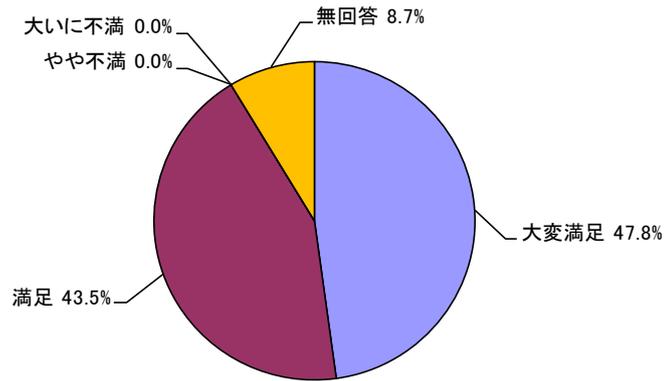


【参加者の声】

- 基調講義の内容がとても分かりやすかった。
- 「連携」に特化して考えることで、研修参加のねらいがはっきりした。
- ワークショップでは、それぞれの市町村の実践例を踏まえつつ、具体的な話し合いができた。
- 課題を見る手法を体験できた。
- 社会教育行政の今日的な課題について、理論から実践まで幅広く知識を得ることができた。
- 「連携」という言葉ばかりを意識していたが、その目的や在り方などについて気付くことができた。
- とても大事なことなので、別な学び方を探る余地があるという意味で満足した。
- 社会教育という知らない分野を知ることができた。
- 今後も継続実施を希望します。
- 貴重な話を聞くことができた。今後の参考にしたい。
- 少し時間が足りなくなった。目的から事業を考えるのではなく、事業を目的に近づけていく形になってしまった。

3 研修プログラムの内容について

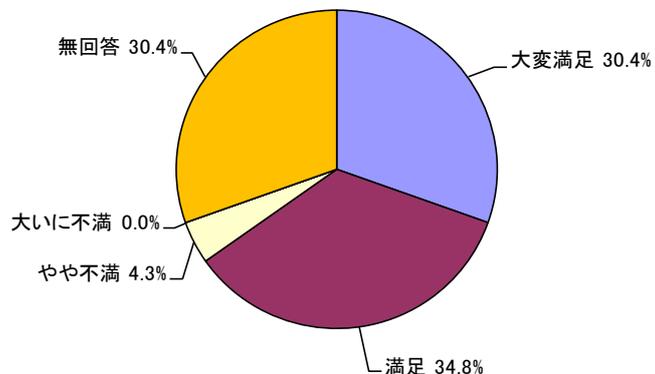
(1) 基調講義「地域課題の解決に向けた行政間の連携と協働までの体制づくりを考える」



【参加者の声】

- 連携についての理解が深まった。
- 佐久間先生の話は分かりやすく、ポイントも理解できた。疑問や悩みについても、再確認できた。
- Total Winとプレゼン力について、理解が深まった。
- Total Winの考え方、目的と手段、職員のプレゼン能力の大切さを知った。
- 多面的に理解することができた。
- 連携は、目的ではなく手段であるということがわかった。
- 有効な情報を得る事ができた。
- 地域課題、連携などの捉え方や必要性について、とても勉強になった。
- 地域や行政、特に社会教育行政の持つ課題や施策及び今後の方向性について、理解できた。
- 学習者（住民）のメリットという視点が大事だということが分かった。
- 住民に課題解決の力を身に付けさせることの重要性を知ることができた。
- 一般行政にも参考になる視点多く、今後の業務に役立つ内容だった。

(2) 事例研究「行政間の連携や協働による地域課題解決のヒントを探るⅠ ～実践事例に学ぶ～」

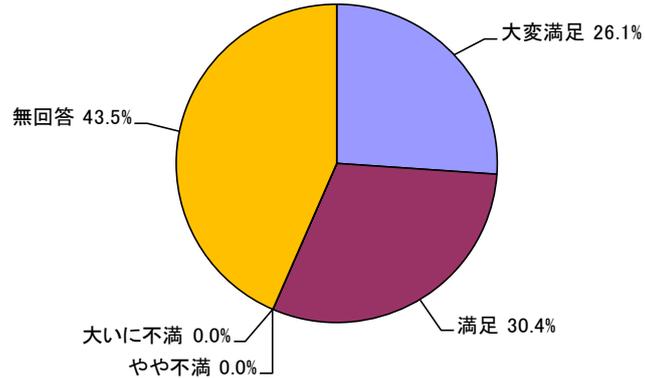


【参加者の声】

- 参考になった。実践につなげたい。
- どの町も、具体的なプログラムづくりに苦労していることが分かった。
- 事例としては、どちらも一般的なものであったが、特に厚岸町の前段のおさえが良かった。
- それぞれの町で、身近な事柄を継続的に実施していることが良く分かった。
- 市民と行政が自然とバランス良く繋がっている良い事例で、参考になった。

- カレンダー発足時の他部署との交渉の事例は、今後の参考になった。
- 失敗からの立て直しの事例を聞くことができ、参考になった。
- 具体的な事例や課題に対してのアプローチの方法が分かった。
- 社会教育と学校教育の関わりの例や、Win-Winの在り方が理解できた。
- 連携することで要求課題の中に必要課題を取り入れる方法を、今後学びたいと思った。
- 実践を重ねているからこそ、共感できる発表だった。

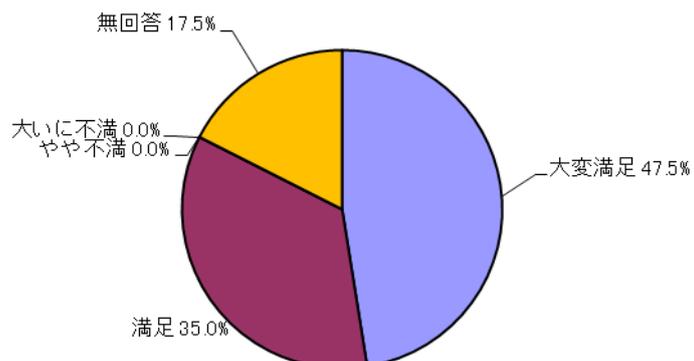
(3) ワークショップ「行政間の連携や協働による地域課題解決のヒントを探るⅡ」



【参加者の声】

- 様々な市町村の意見や情報を聞くことができて良かった。
- 話し合いのプロセスが大変有意義だった。
- ワークに追われることなく、協議の時間を長くとることができて有意義だった。
- 実際の街をもとに話ができて、他市町村の取組も具体的に聞くことができたので、大変満足だった。
- 色々な立場の人の考えを聞くことができ、多くの発見があった。
- 意見をまとめるのが大変だったが、様々な意見や考えを聞くことができて良かった。
- 集落をもとにシミュレーションして課題を考える手法は、参考になった。
- グループワークでうまくまとめ上げられなかった。
- 答えが見えなかった。
- 話し合いは良くできたが、まとめる作業に時間をかけすぎてしまった。

4 講座の運営に関して



【参加者の声】

- 話の順序がまとまっていて分かりやすく、ポイントもつかみやすかった。

- 貴重な話を聞くことができた。
- 課題解決までの流れがわかりやすく、取り組みやすかった。
- 自分の消極さが、若干改善された。
- スムーズに展開されていた。
- 時間通りに進んだので、見通しが立ちやすかった。
- 時間配分等、柔軟に進行していただいた。
- 全日程の参加ができない人や、急な欠席者などが多く、少し残念に思った。

5 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の声】

- 今後の活動に役立つ情報を、多く収集することができました。
- 全道研以上に良かった。
- 今日の社会教育行政の現状や課題にふれることができ、大変貴重な機会となった。
- 気付きも多くあり、とても満足した。
- 受付時間より大分早く来たのに丁寧な対応で、素晴らしかった。
- 同じ社会教育でも、民間とは違う感じがした。難しいこともあったが、色々な方と協議ができて良かった。
- オリエンテーションでの主旨説明は、若い人たちにとっても大事なことだと思う。資料や文書等を用いて説明してほしい。
- 社会教育関係職員以外も対象とするのなら、もう少し簡単に丁寧な言葉を用いた説明が必要だと感じた。真正面から社会教育の重要性を論じるのではなく、気付いた時に社会教育の大切さが感じられるような働きかけ方のほうが、首長部局にも受け入れられやすいと思う。
- 課題の捉え方が、グループにより異なっていた。
- 各管内で行っている「早寝早起き朝ご飯」や「ノーメディア」等の実践的な講義を聞きたい。
- 部分参加の方が多く、議論が途切れてしまった。

6 今後の要望等

【参加者の声】

- ・評価と事業改善の視点で事業を実施してほしい。
- ・資料だけではなく、全道市町村で実施している生涯学習の具体的な事例を紹介してほしい。
- ・道民カレッジ参加の範囲を広げてほしい。（例）1日目は全部対象とする等。